

子どもたち・教職員双方にとって魅力的な学校づくり

子どもの「学びの伴走者」として教育の質を高めるとともに、教職員一人ひとりが「働きがい」を感じられる環境を整えていきます。

ACTION 01 校内研究会の充実

各校では研究主題を掲げ、授業研究で見取った児童生徒の姿をもとに、対話を通して実践を振り返っています。校内研究の検証や自己評価等を行いながら、一人一人の授業力や教育観に関わる専門性を高め、授業改善につなげています。

ACTION 02

外部講師等と連携した研修の実施

外部講師等を招いた研修会では、より質の高い教育を子ども達に届けられるよう、今求められる学びの在り方や、子どもを深く理解し支えていくための方法などを学んでいます。また、福井大学教職大学院との連携や教科等指導員による授業支援を行い、教職員の資質・能力と指導力の向上を図っています。

ACTION 03 教育DXの推進

授業支援アプリやデジタルドリル等を活用して、児童生徒のつまづきを早期に把握し、一人一人に合わせた指導に生かしています。また、校務用端末の更新やクラウド環境の整備により、教職員がどこにいても安全に校務を行ったり、蓄積したデータを適切に活用したりすることで、より効率的で質の高い教育活動につなげていきます。

ACTION 04

「先生のためのワークブック」の活用

「一人一人の子どもに寄り添う温かな関わり」や「小中一貫の充実した授業づくり」のために、学校の研修等で活用しています。「教師として」「児童生徒理解」「集団づくり」「同僚性の向上」等に関する研修を行うことで、教師の力量形成を図ります。

ACTION 05 小中一貫カリキュラムの活用

子どもの「つまづき」の解消のために、間違えやすい課題やその指導法のポイントを系統的にまとめ、授業づくりや授業改善につなげています。市内の全教職員が、クラウド上でデータを共有し、指導に役立てています。

《 国語科 》 Vol.1 説明的文章

1 系統図

小3～4年「書き言葉の意識を含まない文章」 → 小5～6年「書き言葉の意識を含む文章」

身近な話題 → 理解しやすい内容 → 身近な話題 → 理解しやすい内容 → 身近な話題 → 理解しやすい内容

文章の構成・構成・工夫点に基づく → 内容・書き言葉の意識を育てる

【国語科】 小学6年生

1 本文名 読者の気持ちをもつ、自分の考えを表現しよう
「あつたあつた」(国語科)の活用

2 単元の目標 「あつたあつた」から書き言葉の意識を育て、これに対する自分の考えを表現し、自分の考えを表現しよう。

3 単元の目標 「あつたあつた」から書き言葉の意識を育て、これに対する自分の考えを表現し、自分の考えを表現しよう。

4 単元の目標 「あつたあつた」から書き言葉の意識を育て、これに対する自分の考えを表現し、自分の考えを表現しよう。

学習の系統図(一部抜粋) ~国語科~

各単元の指導案(一部抜粋)

学校・家庭・地域との連携協力

子どもが主体的に豊かな未来を切り拓いていけるよう、学校・家庭・地域が手を取りあっています。

学校



部活動地域展開



警察職員による
非行防止授業



PTA奉仕作業



家庭学習ガイドの活用

家庭



奉仕活動(アルミ缶回収)



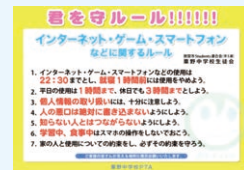
小学校 水泳授業の民間委託



民間によるプログラミング教室
の開催



本の読み聞かせ活動



各中学校の生徒代表が
共同で作成したネットルール

地域